

資料編

各種調査の詳細について

下記調査業務については、札幌市公式ホームページの第3期さっぽろ未来創生プランの「各種調査結果」に調査業務の概要や報告書を掲載しております。

少子化の要因調査

・データ分析に基づく少子化の要因調査・提案業務

(様々な指標に関する21都市との比較分析／合計特殊出生率と少子化の要因との相関分析／未婚、既婚非出産、非複数子といった要因と様々な指標との相関分析)

・結婚・出産・子育てに関する市民アンケート

社会動態に関する調査

・第3期さっぽろ未来創生プラン策定に伴う社会動態に関する意識調査

(市内大学卒業予定者に対するアンケート調査／首都圏在住の道内出身者に対するアンケート調査)

・札幌市に係るIターン経験者への意識調査

外国人人口に関する調査

外国人材の確保に向けた調査分析業務

(市内企業における将来的な人材不足数の概算／外国人労働者の将来人口の試算)

その他

新たな主観的指標の活用のための調査・研究及び指標素案策定業務

(札幌Well-being指標)

さっぽろ未来創生プラン有識者会議

さっぽろ未来創生プランの推進に当たっては、人口学をはじめとする各分野の知見を有する方のほか、札幌市に本拠を置く経済団体、金融機関、労働団体及びメディア、若い世代を象徴する学生からそれぞれ委員を選任し、「さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議」を設置しています。第3期計画の策定に当たっても、有識者の意見を踏まえて検討を進めました。また、北海道と緊密に連携を図りながら計画を策定するため、北海道にオブザーバーとして参加いただきました。

敬称略

役職	氏名	所属	分野
座長	玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究院 教授	教育機関
副座長	丸山 洋平	札幌市立大学デザイン学部 准教授	教育機関
委員 50音順	猪飼 雄一	フリーアナウンサー(元NHK)	移住者
	入澤 拓也	一般社団法人北海道IT推進協会 会長	民間事業者
	大谷 朋子	社会保険労務士法人MIKATA 副代表	士業
	岡田 優衣	北海道大学社会連携サークル「きづき・きずき」 地域連携チームリーダー	学生
	権平 宗中	北洋銀行公金・地域産業支援部 担当部長	金融機関
	柴田 涼平	株式会社とける 代表取締役	民間事業者
	高橋 奈美	Cocokara 代表	民間事業者
	中田 隆博	札幌商工会議所 副会頭	産業界
	浜中 裕之	NPO法人北海道エンブリッジ 代表	NPO
	堀井 友二	株式会社北海道新聞社 取締役企画室長	言論界
	山口 裕一	連合北海道札幌地区連合会 事務局長	労働団体
	吉岡 亜希子	北海道文教大学人間科学部地域未来学科 教授	教育機関
(第1回) →(第2回以降)	渡辺 道博 佐々木 聡一	北海道銀行地域創生部地域創生部 次長	金融機関

計画策定段階での若い世代の意見

1 札幌市の人口減少対策について～北海学園大学

①日時・会場:令和6年(2024年)5月29日(水) 北海学園大学豊平キャンパス

②参加者:北海学園大学 大学生21名

③内容

札幌市の人口減少対策、Well-beingの説明の後、「よりWell-beingになるためには」、「人口減少を緩和するためには」、「人口減少に適応していくためには」といったテーマで複数のグループに分かれて意見交換を行い、検討結果を発表していただきました。

④主な意見

自分のWell-beingを計測してみて、現状にまだまだ満足してなくて、これからさらに幸せになる余地、伸びしろがあるということを実感した。

札幌は、公共交通機関が便利で、楽しいイベントが多いことが若い人にとっては魅力

札幌の美味しいごはん、ちょうど良い都市感が気に入っている。

若者を惹きつけるという意味では、公共交通機関をはじめ学生の利便性向上を考えてほしい。

東京は横浜、千葉などすぐ近くに面白い・魅力的なところがあるが、札幌近郊にはそういった場所が不足している。

アルバイトをしても、時給の低さを感じる。

働くだけで精一杯な状況を変える。結婚、出産を考える余裕を作るための取組が必要

子どものイベントのために休暇を取得することを当たり前にするべき

定期的に家族と一緒に過ごす日や時間を作るような取組を行う。



計画策定段階での若い世代の意見

2 札幌市の人口減少対策について～北海道大学新渡戸カレッジ

①日時・会場:令和6年(2024年)7月30日(火) 北海道大学

②参加者:北海道大学 学生約400名

③内容

札幌市の人口減少対策について複数のグループに分かれて意見交換を行い、代表グループから人口減少対策に関する取組の提案を発表していただきました。

④主な意見

若者が残りたい、道内で就職したいと思える環境をつくるために、中小企業を対象とした企業間マッチングサービスや大学生を対象としたインターン派遣サービスを行い、企業の活性化を図るべき。

10区を都市型、ベッドタウン型、伸びしろ型の3つに分類し、地域の特性に応じた対策を講じる必要がある。

スマート農業化や企業・若者と農家のマッチングを行い、魅力的な雇用創出を図る。

広報に力を入れて、札幌市のさまざまな支援策を知らせるとともに、札幌の居住イメージを上げることによってブランド価値を上げ、札幌に住みたいと思う人を増やす。

就職を控えた人材の市外流出を防ぐため、教育機関と地元企業の連携強化やバーチャルインターンシップなどによって道外在住者へアピールすべき。



計画策定段階での若い世代の意見

3 札幌市の人口減少について～札幌市立元町小学校

①日時・会場:令和6年(2024年)8月8日(木) 札幌市役所

②参加者:元町小学校 児童4名

③内容

札幌市の人口減少についての説明や、「若者を札幌に呼び込む取組や子どもが少なくならないようにする対策を教えてください。」などの児童らからの質問を受けた後、事前に児童らが考えてきた「若者に選ばれる札幌になるためのアイデア」を発表していただきました。

④主な意見

人口が減っていく、子どもが減るとするのは、寂しい気持ちになる。

色々なものを無駄にしないでリサイクルを積極的にする。

自然を大切にする。

熊やシカの対策をしっかりして安心して暮らせるようにする。

ポイ捨てをしないで、みんなでごみ拾いをする事で、きれいな街を作る。

都会で、緑も多い、札幌市が好きだし、これからも住みたいと思う。



計画策定段階での若い世代の意見

4 札幌市の人口減少対策について～オープンカンパニー

①日時・会場:令和6年(2024年)8月22日(木)・23日(金) 札幌市役所

②参加者:大学生19名

③内容

札幌市の人口減少対策、Well-beingの説明の後、「よりWell-beingになるためには」、「人口減少を緩和するためには」、「人口減少に適応していくためには」といったテーマで複数のグループに分かれて意見交換を行い、検討結果を発表していただきました。

④主な意見

Well-being指標を通して、札幌ライフを自分も含め、みんなが楽しんでいることを実感した。

Well-being指標は、今を見つめ直す良い機会となった。

もっと地域とのつながりが持てるようになると、Well-beingの向上につながると思った。

札幌市の結婚支援センターはSNSを効果的に活用した周知を行い、より多くの人に興味・関心をもってもらえる取組をしたほうが良い。

駅の近くに住宅を集積させるなどコンパクトシティを推進すべき。

将来の自分たちが困らないよう、一人一人が公共交通機関を積極的に利用し、路線維持に貢献すべき。

札幌市の良い制度を上手く広報したほうが良い。デザイン性とかよりも、目を引くようなフレーズが重要だと思う。

若者を中心とした社会増加に力を入れていくことで、将来的には結婚、出産等につながっていくことも期待できると思う。



計画策定段階での若い世代の意見

5 札幌市の人口減少について～官民連携によるワークショップ

①日時・会場:令和6年(2024年)8月28日(水) Space札幌 大通EAST

②参加者:市内大学生9名、民間企業若手社員2名、札幌市若手職員2名

③内容

官民連携によって若者向けワークショップを実施。札幌市の人口減少についての説明のほか、札幌で暮らしたいと思えるような「札幌ならではの魅力」や、その魅力の効果的な発信方法について複数のグループに分かれてディスカッションし、発表していただきました。

④主な意見

食・雪・自然など幅広い分野における魅力がある。

都会すぎず、田舎すぎず、バランスがとれたまちであり、都会と田舎の良い部分が集められている。

仕事など若者がやりたいことができるまちであることが魅力である。

たくさんのコミュニティがあり、刺激をもらえる環境がある。

SNSを活用し、札幌の魅力を伝えるショート動画など気軽に見ることのできるコンテンツを投稿

札幌の良さを集結した市民向けのイベント、セミナーなどの開催

インフルエンサーを活用して、札幌での生活の魅力を発信

国内の若者が札幌での生活を体験できる取組の実施



計画策定段階での若い世代の意見

6 札幌市が若者にとって魅力あるまちであるために～官民連携によるツアー企画・造成

①期 間:令和6年(2024年)8月～11月

②参 加 者:市内大学生4名

③内容

「若者にとって札幌市が魅力あるまち」となれるよう、まち歩きを通じて地域の歴史やグルメなど地元の魅力を再発見し、札幌に愛着を感じてもらうことを目的に官民連携によるツアー企画・造成を実施。市内大学生にも協力していただき、地域資源の活用等の意見交換やフィールドワークを実施した上で、自分たちで企画・造成したモニターツアーを実施しました。

④主な意見

まちの歴史や魅力のこういった部分をツアーで伝えるかが重要

普段は入れない、見られないという特別感が重要

歴史の古い街の中にも、新しいものがたくさんある街であるということを再認識するきっかけになった。

街の中には、素敵なものが多く、若い人が行きたくなる店が多い。

美味しいものを食べる、可愛い雑貨を見る、みんなでお酒を飲むというのは楽しい。

今度は友人を誘ってまた来たいと思うようなツアーとなった。



計画策定段階での若い世代の意見

7 私たちのまちのありたい姿を対話しよう～プラン策定に向けた若者向けワークショップ

①日時・会場:令和7年(2025年)1月19日(日) 札幌国際ビル8階「国際ホール」

②参加者:概ね15歳以上40歳未満の札幌市民35名(このほかユースファシリテーター8名)

③内容

第3期さっぽろ未来創生プランの概要の説明後、「子どもを持つこと」、「札幌で暮らしていくこと」といったテーマで、8グループに分かれて意見交換やグループ間の意見共有を行いました。

④主な意見

人口減少は重大な課題と理解できるが、自分事としてとらえるのは難しい。

人口が減っても、自分の好きなことをできていれば、いいのかなと思う。

目指すべき将来の姿の中では、特に「子育てを楽しみながら」という点が大事だと思う。子どもを嫌いになってはしようもない。

意外に札幌は暮らしやすいから暮らし続けたいと思っている若い人が多い。若い人は、都市に更なる発展ばかりを求めているわけではない。

札幌で暮らしていきたいけど、職業によっては道外に出ないといけないかもしれない。

子どもに対してのサポートを増やして、育てやすい環境を作り、それを発信して広めてほしい。

子どもを持つことについて、どんな風に変で、どれだけお金がかかるかなど具体的な事を知る機会が多くないからイメージがわからない。

子育ては、話だけだと大変なところばかりに目がいきがちだけど、実際に育てている人の幸せそうな顔を見ると、何にも代えがたい喜びがあるのだと実感できる。



計画策定段階での若い世代の意見

8 札幌市の人口減少対策について～札幌市立東白石中学校

①日時・会場:令和7年(2025年)2月3日(月) 札幌市立東白石中学校

②参加者:東白石中学校 学生26名

③内容

第3期さっぽろ未来創生プランの概要の説明後、札幌Well-being指標を実際に回答し、複数のグループに分かれて、様々な観点からのWell-beingについて意見交換を行いました。

④主な意見

札幌の魅力を日本中に発信することに力を入れるべきだと思う。

札幌にしかないものをアピールすべきである。

札幌は自然と都市の調和が売りなので、そこを強くアピールしていく必要がある。

札幌市は他の政令指定都市に比べて深刻な状況であることが分かった。

札幌が女性の方が多いまちだというのは全く知らなかった。

雪があって住みづらそうと思っている人が多いと思うので、雪があっても、なくても同じように暮らせるようにすると良いと思う。

合計特殊出生率の低下を防ぐためには、子育てのために仕事を休みやすいような雰囲気を作っていけたら良いと思った。

雪に対してマイナスな印象を持つ人が多いと思うので、雪の楽しさを伝える取組をもっとするべきだと思った。

計画案に対する市民意見

1 パブリックコメントの概要

計画案について、パブリックコメントを実施し、市民の皆様からのご意見を募集しました。

①意見募集期間

令和6年(2024年)12月25日(水)～令和7年(2025年)1月24日(金)

②意見提出方法

郵送

FAX

Eメール

ホームページ上の意見募集フォーム

持参

③資料の配布・閲覧の場所

札幌市役所本庁舎(2階市政刊行物コーナー、5階まちづくり政策局政策企画部企画課)

各区役所(総務企画課広聴係)

各まちづくりセンター

公益財団法人札幌国際プラザ

札幌市ホームページ

※上記の他、市内の高等学校・大学・短期大学・専門学校・企業へ計画案の配架や周知を依頼

④パブリックコメントの詳細

本パブリックコメントの詳細については、札幌市公式ホームページの第3期さっぽろ未来創生プランに「意見集」を掲載しております。

計画案に対する市民意見

2 パブリックコメントの内訳

①意見提出者数・意見件数
214人・270件

②年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
人数	182人	11人	2人	10人	1人	6人	2人	214人
件数	215件	14件	3件	15件	1件	18件	4件	270件

③提出方法別内訳

方法	郵送	FAX	Eメール	ホームページ	持参	合計
人数	2人	0人	0人	13人	199人	214人
構成比	0.93%	0%	0%	6.07%	93%	100%

計画案に対する市民意見

2 パブリックコメントの内訳

④意見内訳

	合計	件数	構成比
計画書全体		22	8.1%
第1章 第3期さっぽろ未来創生プランの策定に当たって		0	0%
第2章 第2期さっぽろ未来創生プランの評価		0	0%
第3章 人口ビジョン編		8	3.0%
第4章 総合戦略編		225	83.3%
第1節 総合戦略の枠組み		1	0.4%
第2節 人口減少緩和戦略		193	71.5%
1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり		73	32.4%
2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり		68	25.2%
3 若い世代へ向けたアプローチの強化		52	19.3%
第3節 人口減少適応プロジェクト		31	11.5%
1 市民が幸せになるための取組の強化		11	4.1%
2 外国人材に選ばれる環境づくり		17	6.3%
3 持続可能な都市の在り方の検討		3	1.1%
第4節 様々な主体との連携		0	0%
第5節 主要事業一覧		0	0%
第5章 プランの推進に当たって		0	0%
資料編		0	0%
その他		15	5.6%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも一致しません。

計画案に対する市民意見

3 パブリックコメントに基づく当初案からの変更点

意見の概要	市の考え方	修正前	修正後
<p>人口が減少することを恐れすぎることには、市民に意識させすぎることになるので避けたほうが良いと思う。人口減少によって生み出される価値があったり、人口が何人かというよりも、一人ひとりが好きなことができていることの方が大事だと思う。【類似意見3件】</p>	<p>人口減少などの情報を発信する際には、市民の皆様には不安を与え過ぎないよう配慮することは重要であるとともに、市民の皆様が好きなことをできているなど幸せを感じたり、希望を実現していることが大切であると認識しております。また、人口減少によって環境負荷の低減や過密性の緩和などが生じるという側面について、持続可能な都市の在り方の検討に記載しております。御意見を踏まえ、プランを見た方が明るい気持ちになれるよう、目指すべき将来の姿の大項目を様々な場面の写真とともに、「はじめに」に掲載いたします。</p>	<p>記載なし</p>	<p><u>表紙の次ページ「はじめに」に目指すべき将来の姿の大項目を提示の上、プランに関連する様々なシーンの写真を掲載</u></p>

計画案に対する市民意見

3 パブリックコメントに基づく当初案からの変更点

意見の概要	市の考え方	修正前	修正後
障がい者が札幌市の構成員と見られていない感覚を覚えた。また、障がい者をはじめ、学生・若い社会人・女性等、様々な人に意見を聞くような場を設けて意見を聞いて欲しい。【類似意見1件】	第3期さっぽろ未来創生プランは、「誰もが幸せを感じ、希望を実現している、魅力と活力に満ちあふれる未来」を目指すべき将来の姿の大項目に設定しており、障がいのある方をはじめ、高齢者、女性、外国人等を含めるものであるとともに、策定に当たっては、ワークショップや出前講座など様々な機会を通じてご意見をお伺いしており、引き続き様々な場面でご意見をお伺いしてまいります。御意見を踏まえ、「障がい者の活躍推進」の項目を追加いたします。	記載なし	【障がい者の活躍推進】 関係機関と連携して障がいのある方や企業等からの一般就労に関する相談に応じるとともに、障がいのある方、障害福祉サービス事業所及び民間企業を対象としたセミナーや各種講座等を実施し、障がい者雇用を促進します。

計画案に対する市民意見

3 パブリックコメントに基づく当初案からの変更点

意見の概要	市の考え方	修正前	修正後
<p>多様な世代が交流できる子ども食堂があると良いと思う。子育て経験のある高齢の方が、子育て中のお母さんの相談を受けてくれると助かると思う。高齢の人達も役割ができ、健康で長生きも出来ると思う。食事が出来る場所としても、不登校児や引きこもりなどの人達への第三の居場所にもなると思う。</p>	<p>札幌市内では、地域の団体やNPO法人等多くの団体が、それぞれの理念や目的の下で、様々なコミュニティ活動を実施しています。その中には、ご提案のような活動を行っている子ども食堂もあり、そうした活動も含めて、引き続き「安心安全な環境の下で、様々な交流・経験機会の提供を通じて健やかな成長を促すとともに、地域で子どもを見守る取組(居場所づくり活動)」を支援していきます。ご意見を踏まえ、子どもを支える環境の充実の項目に、「子ども食堂など子どもの居場所づくり」に関する記載を追加いたします。</p>	<p>【子どもを支える環境の充実】 子どもの心の診療についての関係機関によるネットワークの強化や児童精神科専用病床の設置を実施するとともに、医療的ケアを必要とする児童が健やかに成長でき、その家族が安心して子育てを行える環境を作るため、訪問看護の提供や、短期入所で受入れる体制を維持・改善します。 また、児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけ等のため、専門的な知識や経験をもつ専門家であるスクールソーシャルワーカーを活用するとともに、社会的養護を利用している子どもを対象とした意見形成・表明支援を実施します。 今後の人口減少等の給食運営の課題を踏まえ、持続可能な給食提供の在り方を検討します。</p>	<p>【子どもを支える環境の充実】 子どもの心の診療についての関係機関によるネットワークの強化や児童精神科専用病床の設置を実施するとともに、医療的ケアを必要とする児童が健やかに成長でき、その家族が安心して子育てを行える環境を作るため、訪問看護の提供や、短期入所で受入れる体制を維持・改善します。 児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけ等のため、専門的な知識や経験をもつ専門家であるスクールソーシャルワーカーを活用するとともに、社会的養護を利用している子どもを対象とした意見形成・表明支援を実施します。 今後の人口減少等の給食運営の課題を踏まえ、持続可能な給食提供の在り方を検討します。 <u>地域全体で子どもたちを見守る環境を充実させ、安心して過ごせる地域の居場所づくりを推進するため、子ども食堂など子どもの居場所づくりの活動に対し支援します。</u></p>

計画案に対する市民意見

3 パブリックコメントに基づく当初案からの変更点

意見の概要	市の考え方	修正前	修正後
<p>子どもを持たない人々が実際に子どもを持って良いと考えられるよう、子どもと触れ合える機会を設けることが重要だと思う。子どもを持つだけでなく、将来の仕事の選択肢に保育士が追加され、保育士の不足を補えると思う。【類似意見3件】</p> <p>子どもを持つことについて、どのように大変で、どれだけお金がかかるかなど具体的な事を知れる機会が多くないためイメージがわかず不安だけを感じる。【類似意見1件】</p> <p>若者は子育てに大変なイメージを持っているなど、大変なところばかりに目がいっている。そういう情報や話が入ることが原因だと思うことから、もっとポジティブな情報共有、子育て経験者からの幸せな話を聞けるような場が必要だと思う。【類似意見4件】</p>	<p>人口減少緩和戦略の若い世代へ向けたアプローチの強化の子育て等の魅力の発信において、子育て等のイメージアップを図るため、子どもや子育ての良さ・喜びを幅広い世代で共有、共感できるような取組の推進を掲げております。ご意見を踏まえ、子育て等の魅力の発信の項目に、「子どもと触れ合う機会や子育て経験者と話す機会の確保」について記載を追加いたします。</p>	<p>【目指すべき将来の姿・子育て等の魅力の発信】</p> <p>札幌の目指すべき将来の姿の共有や子育て等のイメージアップを図るため、人口減少対策によって実現する目指すべき将来の姿を特に若者が具体的にイメージできるよう情報発信していくとともに、子どもや子育ての良さ・喜びを幅広い世代で共有、共感できるような取組を推進していきます。</p>	<p>【目指すべき将来の姿の共有】</p> <p>オール札幌で人口減少対策に取り組んでいくため、人口減少対策によって実現する、札幌の目指すべき将来の姿について、市民と共有するとともに、特に若者が具体的にイメージできるよう情報発信を行います。</p> <p>【子育て等の魅力の発信】</p> <p>子育て等のイメージアップを図るため、子どもと触れ合う機会や子育て経験者と話す機会の確保など、子どもや子育ての良さ・喜びを幅広い世代で共有、共感できるような取組を推進していきます。</p>

用語集

頁	語句	解説
6	産官学金労言士	「産業界」、「官公庁」、「大学等」、「金融機関」、「労働団体」、「言論界」、「弁護士等の士業」を表す。
6	北海道創生総合戦略	北海道の創生に関する施策推進のための目標及び基本的方向等を位置付けるとともに、人口減少問題への対応に関する分野別計画の指針となるもの
7	合計特殊出生率	その年次の15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
7	既婚非出産	既婚者が子どもを持たない状態
8	ひろば型子育てサロン	週3回以上かつ1日5時間以上開催する子育てサロンで、子育て中の親子が気軽に集い、自由に交流や情報交換ができる場。子育てに関する相談や援助、情報提供などを実施している。地域の団体やNPO団体などが運営
9	札幌市ワーク・ライフ・バランスplus認証	「ワーク・ライフ・バランス」や「女性の活躍推進」に取り組む企業を取組内容に応じて3段階で認証する制度
9	燃料電池自動車	水素と酸素を化学反応させて電気をつくり、モーターで走行する自動車。走行時には水しか排出しない。
12	21都市	20政令指定都市と東京都区部
12	非複数子	既婚者が第二子以上の子どもを持たない状態
21	有配偶出生率	15～49歳までの女性の出生数を15～49歳の有配偶の女性の数で除したもので、当該年の有配偶の女性1,000人当たりの子どもの数に相当する。
22	第二子以上の有配偶出生率	15～49歳までの女性の第二子以上の出生数を15～49歳の有配偶の女性の数で除したもので、当該年の有配偶の女性1,000人当たりの第二子以上の子どもの数に相当する。
28	M字カーブ	日本における女性の年齢階級別労働力率をグラフで表したときに描かれるM字型の曲線をいう。
39	道内出身首都圏在住若年層	道内出身者で現在首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)に在住している18歳～39歳の社会人
40	UIターン	大都市圏の居住者が地方に移住する動きの総称。Uターンは出身地に戻る形態、Iターンは出身地以外の地方へ移住する形態、Jターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態を指す。
47	GX	グリーン・トランスフォーメーション。産業構造・社会構造を温室効果ガス排出につながる化石エネルギー中心から、再生可能エネルギーなどのグリーンエネルギー中心へ変革していくこと。
53	希望出生率	若い世代の結婚や出産の希望が実現した場合の出生率
53	人口置換水準	人口移動がない状況で人口が増加も減少もしない均衡した状態となる出生率の水準
57	SDGs	Sustainable Development Goals の略。平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された令和12年(2030年)までの世界共通の目標である「持続可能な開発目標」のこと。「誰一人取り残さない」という理念のもと、17のゴール(目標)と169のターゲット(取組・手段)で構成され、全ての主体が取り組む普遍的なもの
59	スタートアップ	世の中の課題を解決するために、先端的な技術を用いて社会にイノベーションを起こし、短期間で急成長を遂げる企業

用語集

頁	語句	解説
59	イノベーション	新しい方法、仕組み、習慣などを導入することをいい、新製品の開発や生産方法の改良、新しい資源や原料の開発、組織体制の改変等により、新しい価値を生み出すこと。
59	AI	Artificial Intelligence の略称。人工的にコンピューター上などで人間と同様の知能を実現させようという試み、あるいはそのための一連の基礎技術
59	XR	「X (Cross) Reality」の略称で、VR (仮想現実)・AR (拡張現実)・MR (複合現実) など、現実世界と仮想世界とを融合させ、新たな体験や価値を生み出す先端技術の総称
60	デザイン経営	デザインを企業価値向上のための重要な経営資源として活用する経営
62	さっぽろ連携中枢都市圏	圏域内の活力を維持し魅力あるまちづくりを進めるため、平成31年(2019年)3月に形成された圏域。連携中枢都市である札幌市のほか、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町と長沼町により構成される。
62	関係人口	定住人口でもなく、観光による交流人口でもない、地域と多様に関わる人々を指す表現
65	MICE	多くの集客・交流が見込まれるビジネスイベントの総称。Meeting (企業等の会議)、Incentive Travel/Tour (企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention (国際機関・団体・学会等が行う国際会議等)、Exhibition/Event (展示会/見本市・イベント等)の頭文字をとったもの
66	アクションスポーツ	速さや高さ、華麗さなどの要素を持った、離れ業を売りとするスポーツの総称
66	アーツカウンシル	行政とは独立した立場で文化芸術施策の推進を担う組織
73	孤育て	親族の協力が得られず、近所との付き合いもなく孤立した中で母親又は父親が子どもを育てている状態
74	GIGAスクール構想	1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現することを目指した構想
78	地域おこし協力隊	都市地域から人口減少や高齢化等の進行が著しい地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年
79	ライフデザイン	「これからどんな人生を送りたいか」についての個人の価値観に基づいた考え方のこと。
83	多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

SAPP_URO

市政等資料番号
01-B01-25-542